

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2091500070		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ塩尻		
所在地	長野県塩尻市大門三番町2-3		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2091500070&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様が安心して過せる環境づくりと、一人ひとりに寄り添ったサービス提供を行っている。又地域との関係を大事にし、地域の行事に積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ニチイのほほえみ塩尻は介護・医療関連事業を全国展開されている「(株)ニチイ学館」を母体に持ち開所して1年が経過の中での外部評価である。ホームは市街地にあり入居者は近隣の商店街や公共施設へ散歩等に出掛け地域社会との関係性の継続が得られる快適な環境の地に設置されている。ホーム運営には近隣の方々の理解や協力が不可欠で運営推進会議のメンバーには、区長やオーナー、民生委員、市担当者等の参加を得て地域密着型としての質の確保・向上(散歩支援や避難訓練、環境整備等)を図るため質疑応答が活発に行われており、地域との協力体制が築かれつつある。また管理者は豊富な福祉関係事業所での経験と専門性を活かし、運営や職員の相談指導に当たられており、職員と協同してケアサービスに当たり入居者は大変明るく穏やかである。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(ひまわり)

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(たんぼぼ)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館としての経営理念の唱和を定期的に行うとともに、その理念に向けた独自の目標を作り、常に意識しながら実践につなげている。	母体法人の経営理念やホーム指針「生きがいを持ち充実した日々を過ごせるホーム」を掲げ朝礼時、ミーティング時(週1回)に唱和して職員全員で共有を図り、日頃のケアに当たられている。	法人理念をもとに、地域密着型サービスの役割を端的に示したホーム独自の理念を職員全員で作成することが大切である。その理念を、職員一人ひとりがケアサービスの拠り所として実践されることを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	市や地区のお祭り・行事等へも積極的に参加している。散歩の機会を多く持ち、行きかう近隣住民との交流の場となっている。	市の公共施設(レザンホール)への訪問や地域の行事(大門祭り・ハロイン等)に積極的に参加されている。また公民館で開催されている元気づくり教室への参加や保育園児がホームへ来所して楽しく交流が図られている。なお日常的な散歩時に民生委員さんや近隣の方々による散歩支援を受け人々との関わりを大切にされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としての取り組みに努めるとともに、行事の参加や交流を通して、地域の方々々に認知症の理解をしてもらえるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況の報告に対する様々な意見を、ホームの話し合いや地域への参加に活かし、サービスの向上に努めている。	運営推進会議の折に家族会も開催されており、沢山のご家族やオーナー、区長、民生委員、市の担当者等が参加されている。入居者や職員状況、行事・活動状況、ホームからの伝達事項、ご家族よりの相談・要望等参加者全員から質問、意見、要望が出され双方向的な会議となっている。なお現在継続検討事項として地域の方々との避難訓練に向けた話し合いが行われていることを伺った。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から担当行政に相談し、アドバイスをいただく等、協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議に参加の折にホームの実情を把握していただくと共に、新規に入居される方についての相談掛けをするなど、必要時に担当者と連絡を取りながら問題解決を図っていく取り組みが行われている。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルや研修の実施で正しく理解し、身体拘束を行わないケアに努めている。	ホーム会議の折に、マニュアルの活用や外部講師等による研修会を行い身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。現在夜間のみベットからの転落予防のため、ご家族の同意を得て4点柵が使用されていることを伺った。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてのマニュアルや研修の実施により、何が虐待に当たるのかなどを勉強し、虐待のないサービスに努めるとともに、見過ごされることがなく相談できる環境であるように努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者がいないこともあり、勉強不足ではあるが、勉強会などで学び、今後活用できるように努めたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は十分な時間をとり、入居者・家族が納得して契約の締結が行えるよう説明し質問等も受けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に気軽に意見・要望が言える環境や関係作りに努めている。又、運営推進会議等でも家族の質疑・応答の場を設けている。ニチイ学館としての苦情受付のコールセンター等も設けている。	日頃の関わりの中より入居者の思いや希望を汲み取るよう努められている。またご家族よりの意見の表出場面として運営推進会議や家族会、面会等が設けられており、出された意見、要望等はミーティングで話し合い運営や日々のケアに反映されている。	現在運営推進会議の折に家族会が同時進行で行われている。職員が席をはずし、家族だけで話しあいを持てる場を提供するなど、より多くの意見や要望を出してもらえるような配慮が望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議等により、職員の意見・提案を聞き、その後の運営に反映させている。	ホーム会議の折に職員より意見、要望、提案等(掃除の分担、シフト関係等)を受け運営に反映されている。	管理者は現場職員の意見を十分に聴きケアに反映すると共に、職員の精神的ケアを図るためにも定期的な個人面談の実施が望まれる。

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ制度の導入もあり。又、各自が向上心を持って働けるよう、コミュニケーションを密にとるなど職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域での研修会や講義の開催を伝え、参加を促すとともに職員一人ひとりの力量を考慮し、育成に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会の参加により同業者との交流の機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とにかくコミュニケーションに重点を置き、普段の何気ない会話から、本人の不安や訴えを汲み取り、それを取り除けるような関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学時や事前面談時を含め、家族と連絡を取る際は、不安点や要望等じっくり話を聞き、家族が安心して任せられる関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を伺った時点で、他のサービスの方が、家族や本人にとって望ましい場合であれば、他のサービスも提案している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることは、出来るだけ参加・お手伝い頂き、共同生活をともに過ごす立場としての関係を持てるように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会の機会を多く持って頂き、家族にも参加いただくことにより、家族の絆を大切にしながら共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の訪問者(友達や御近所様)でも気軽に足を運べる環境作りに努めている。	生活暦をご家族より情報提供を受けると共に日頃の関わりの中(散歩時、掃除や調理、風呂支援時等)より得られた人間関係や社会関係を基に馴染みの人や友人、親族に手紙を書いたり、頂いたりして大きな喜びに繋がっている。なお隣人や友人等の訪問を大変楽しみにされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの立場や関係を把握し、お互いが支えあって生活できるようなコミュニケーションの手助けが出来るように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してしまっても、必要に応じて相談に応じその後のフォローに努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向をコミュニケーションの中から汲み取り、把握できるように努め、定期的に会議等で検討している。	日頃の寄り添いのケアの中より入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めると共に、意思疎通が困難な入居者については、ご家族や関係者より聞き取り情報を得られている。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、本人からの思い出話などからセンター方式の記録を利用し、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や心身の状況など観察し、センター方式の記録を利用し、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、それぞれの関係者の意見を踏まえ介護計画書に反映させて作成している。	居室担当者が日頃より入居者やご家族との関わりの中より思いや意向を把握しユニット会議の折に、情報提供をして職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行い介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の身体状況や1日の過ごし方などを介護記録に細かく記入するとにより職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、カンファレンス時のいろいろな意見に耳を傾け、1つの考えに捉われず、柔軟な支援が行えるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近な地域資源を把握し、本人が地域に参加したり、地域のボランティアに来てもらったり、地域の中での生活を本人が楽しめるような支援に努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が納得したかかりつけ医に適切な医療を受けられるよう相談しながら支援し、かかりつけ医と事業所の関係の構築にも努めている。</p>	<p>入居者、ご家族が納得したかかりつけ医での受診支援が行われている。ホームとの提携医利用の方については月1回の往診があることを伺った。その他の方も身体状況に応じかかりつけ医による往診が行われている。月4回の訪問看護による支援もあり入居者、ご家族、職員の安心に繋がっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>月に4回の訪問看護の関わりにより、日々の健康に関する相談や情報の交換をすることで、適切な受診や看護を受けられるように努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時は、病院関係者と連絡を密に取り、カンファレンスに参加したりと情報交換や相談に努めているが、それ以外でも病院関係者との関係作りに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族の意向を話し合い、方針を共有しながら、関係者とともに協力し、安楽な終末期の生活に向けた支援が行えるよう努めている。</p>	<p>入居者の気持ちを大切にして、ご家族と話し合いを重ね入居者が安心して終末期を迎えられるよう方針を立て関係者と共有して連携をとりホームで対応し得る最大の支援が行えるよう取組まれている。</p>	<p>ホームで対応しうる最良の看取り支援に向け、職員の力量アップに務め医師、職員、関係者と連携を図り、安心した最期を迎えられるような取り組みに期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルや定期的な研修・訓練により、急変時や事故発生時の早急な対応が行える実践力を付けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な避難訓練の実施している。時には地域の方に協力参加頂くことにより、地域との協力体制の構築に努めている。</p>	<p>年2回の避難訓練が行われている。災害が発生したときに混乱が起きないようにマニュアルを作成すると共に、避難経路を作成しホーム内の分かりやすい壁面に掲示されていた。</p>	<p>入居者の高齢化に伴う身体機能の低下や重度化により、職員のみでの誘導には限界があると思われる。そのため災害に遭遇したときに近隣住民の協力が得られるよう更なる協力体制に期待する。</p>

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応の1つ1つを大切にし、その方の人格を尊重し、プライバシーを損ねることのないよう努めている。	職員と入居者の会話の中で、入居者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けやさり気ないケアによりプライバシーを損ねない対応がされている。	入居者の尊厳とプライバシーの確保を徹底していくために、定期的に接遇研修を行うことが大切である。入居者の誇りやプライバシーの確保について、日常的な確認と改善に向けた事業所全体の取り組みに努められるよう期待する。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表したりできる環境作りや、自己決定できるような声かけ・促しができるよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし、その人のペースでその人らしい生活を過ごせるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や人に会う機会を作ることで、おしゃれの意欲をなくさないよう、また、毎日の整容に関してもその人らしさを尊重した支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の得意な部分を活かし、調理から片づけまでの工程にそれぞれが役割を持って、楽しみながら参加できるよう配慮している。	入居者の嗜好等に配慮して献立を立て入居者一人ひとりの力を活かし調理、配善、片付け等一連の作業に役割を持って職員の支援を得て行われている。職員と一緒にテーブルを囲み会話を楽しみながら和やかな雰囲気の中で「この食事は美味しい」と笑顔が見られた。	職員はお弁当を持参して入居者と食事をされている。入居者が職員のお弁当を見て「私のおかず食べて」と配慮されている場面が見られた。職員も同じメニューを楽しく食べることで「食の満足」の大切さを認識して職員全員で検討されるよう期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況や習慣に応じた栄養摂取や水分確保が行えるよう支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、その人の口腔状態や身体状況などに合わせ、支援をしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせたトイレへの誘導や声かけなど、自立に向けた支援を行っている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを介護記録に残し全職員で周知しており、さり気ないトイレ誘導により自立に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心のバランスの良い食事、乳製品や水分摂取に努め、適度な運動にも努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で決めることなく、本人の体調や希望・タイミングに合わせ、気持ちよく入浴できるよう配慮している。	週2～3回の入浴支援が行われている。入居者の希望や体調を配慮しながらスムーズで安全な入浴支援が行われている。なお入浴を拒否される方には時間をかけタイミングを見ながら安心と満足が得られる入浴支援に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、状況に応じた休息や安心して気持ちのよい睡眠が取れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法・用量を全職員が理解し、日々の体調や症状の変化に気を配っている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、今までの趣味・得意分野を知り、その人に合った楽しみや役割を見つけ、張り合いや喜びのある日々になるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の協力も得ながら、出来るだけ本人の希望に沿った外出の機会を作れるように努めている。	ホームに閉じこもらない支援の大切さを職員は周知されており、日常的な散歩による外出支援に配慮されている。地域の民生委員や近隣の住民による散歩支援が行われており、商店街やエンパーク(図書館)への散歩を楽しまれていることを伺った	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっているが、本人の希望により使用できるように配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や意向に応じ、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や絵などを飾り、不快感のあるものは取り除くように努めている。また、掃除等にも気を配っている。	共用空間は広く居間、食堂、台所が一体化しており、調理をしながら入居者との会話や状況把握が出来る事や調理の匂いが漂い家庭的な雰囲気や生活感が得られている。また季節の花(シクラメン等)が要所要所に飾られると共に、クリスマスの飾りつけにより季節感を採り入れ、空間づくりに工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが自分に合った空間を見つけ、思い思いに過ごせるような環境作りに努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮			
55		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人の馴染みのある物を持ってきていただき、今まで住み慣れた生活に近いものにし、安心して心地よく過ごせるように工夫している。	入居者の希望により畳の部屋とフローリングの部屋が選択できる仕様になっている。居室には入居者の馴染みの品(テレビ、筆筒、衣装ケース、家族写真、ぬり絵作品等)が持ち込まれ、思い思いの形態に配置して居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来ることやわかることをそのまま安全に継続して行えるような環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館の経営理念の唱和を定期的に行い、その理念に向けた独自の目標も話し合いにより作成し、目標をもとに実践へとつなげている。	母体法人の経営理念やホーム指針「生きがいを持ち充実した日々を過ごせるホーム」を掲げ朝礼時、ミーティング時(週1回)に唱和して職員全員で共有を図り、日頃のケアに当たられている。	法人理念をもとに、地域密着型サービスの役割を端的に示したホーム独自の理念を職員全員で作成することが大切である。その理念を、職員一人ひとりがケアサービスの拠り所として実践されることを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント等へ積極的に参加。ボランティアにも出向いてもらっている。散歩時に行きかう近隣住民との交流もしている。	市の公共施設(レザンホール)への訪問や地域の行事(大門祭り・ハロイン等)に積極的に参加されている。また公民館で開催されている元気づくり教室への参加や保育園児がホームへ来所して楽しく交流が図られている。なお日常的な散歩時に民生委員さんや近隣の方々による散歩支援を受け人々との関わりを大切にされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としての地域貢献の取り組みとともに、行事の参加や交流を通して、地域の方々へ向けても努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況の報告・意見交換を通して、ホームの話し合い・地域参加に活かし、サービスの向上に努めている。	運営推進会議の折に家族会も開催されており、沢山のご家族やオーナー、区長、民生委員、市の担当者等が参加されている。入居者や職員状況、行事・活動状況、ホームからの伝達事項、ご家族よりの相談・要望等参加者全員から質問、意見、要望が出され双方向的な会議となっている。なお現在継続検討事項として地域の方々との避難訓練に向けた話し合いが行われていることを伺った。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者へ相談したり、アドバイスをいただいたりしながら、協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議に参加の折にホームの実情を把握していただくと共に、新規に入居される方についての相談掛けをするなど、必要時に担当者と連絡を取りながら問題解決を図っていく取り組みが行われている。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを読んだり、研修会を行うなどし、身体拘束について理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	ホーム会議の折に、マニュアルの活用や外部講師等による研修会を行い身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。現在夜間のみベットからの転落予防のため、ご家族の同意を得て4点柵が使用されていることを伺った。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを読んだり、研修会を行うなどし、何が虐待に当たるのかなどを勉強し、虐待行為がなく虐待が見過ごされることなく気になることはすぐ相談できる環境であるように努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者はいない。勉強会などで学び、今後活用できるようにしたいと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約には十分な時間をかけて説明し、質問を受けるようにし、入居者・家族が納得して契約の締結が行えるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など、意見・要望がしやすい環境・関係作りに努めている。運営推進会議も家族の質疑・応答の場を設け、ニチイ学館の苦情受付のコールセンター等ある。	日頃の関わりの中より入居者の思いや希望を汲み取るよう努められている。またご家族よりの意見の表出場面として運営推進会議や家族会、面会等が設けられており、出された意見、要望等はミーティングで話し合い運営や日々のケアに反映されている。	現在運営推進会議の折に家族会が同時進行で行われている。職員が席をはずし、家族だけで話しあいを持てる場を提供するなど、より多くの意見や要望を出してもらえるような配慮が望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見・提案を聞き、会議を行うなどして、運営に反映させている。	ホーム会議の折に職員より意見、要望、提案等(掃除の分担、シフト関係等)を受け運営に反映されている。	管理者は現場職員の意見を十分に聴きケアに反映すると共に、職員の精神的ケアを図るためにも定期的な個人面談の実施が望まれる。

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、スキルアップ制度を使ったり、面談の実施やコミュニケーションを密にとり、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を考慮して、研修会や講義の参加を促し、働きながらトレーニングしていけるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会に参加し、同業者との交流することにより、サービスの質を向上にさせていけるよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを1番に考え、会話の中から本人の不安や訴えを見つけ、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时・事前面談時を含め、家族との会話から、不安点・要望をじっくり話を聞き、信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望などから、より望ましいサービスであれば、他のサービスも提案している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは、出来るだけして頂き、共同で生活をする立場としての関係を築けるよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に面会に来て頂き、家族の面会時は、家にいるような雰囲気ですらに過ごして頂けるように、時には一緒に外出していただいたりなど、家族の絆を大切にしたい環境作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも来やすい環境作りと雰囲気作りに努めている。	生活暦をご家族より情報提供を受けると共に日頃の関わりの中(散歩時、掃除や調理、風呂支援時等)より得られた人間関係や社会関係を基に馴染みの人や友人、親族に手紙を書いたり、頂いたりして大きな喜びに繋がっている。なお隣人や友人等の訪問を大変楽しみにされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり、お互いが支えあって生活できるよう、コミュニケーションの手助けや関係作りが出来るように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何かあれば相談に応じ、これまでの関係性を大切にしながら、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いや暮らし方の希望や意向を把握できるようにコミュニケーションに努め、困難な場合は定期的な会議などで検討している。	日頃の寄り添いのケアの中より入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めると共に、意思疎通が困難な入居者については、ご家族や関係者より聞き取り情報を得られている。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の話し、本人の思い出話を聞き、センター方式の記録を通して、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況や心身状況などを、センター方式の記録を通し、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスの実施と、それぞれの関係者の意見・アイデアを反映させた介護計画書の作成を行っている。	居室担当者が日頃より入居者やご家族との関わりの中より思いや意向を把握しユニット会議の折に、情報提供をして職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行い介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の状況を介護記録への記入し、職員間で共有・実践しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズを、1つの考えに捉われず、いろいろな意見をきくことにより、柔軟な支援が行えるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近な地域資源の把握と、本人の参加、地域ののかわりにより、地域の中で本人が楽しく暮らせるような支援に努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望のかかりつけ医と事業所の関係の構築に努め、適切な医療を受けられるよう支援できるよう努めている。</p>	<p>入居者、ご家族が納得したかかりつけ医での受診支援が行われている。ホームとの提携医利用の方については月1回の往診があることを伺った。その他の方も身体状況に応じかかりつけ医による往診が行われている。月4回の訪問看護による支援もあり入居者、ご家族、職員の安心に繋がっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>月4回の訪問看護で、健康に関する相談や情報の交換を行い、適切な受診や看護を受けられるように努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時は、病院関係者と連絡を密に取り、カンファレンスに参加したりと情報交換や相談に努めているが、それ以外でも病院関係者との関係作りに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族の意向を踏まえた話し合いにより、方針を共有し、関係者の協力のもと、安楽な終末期生活を過ごせるよう、支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の気持ちを大切にして、ご家族と話し合いを重ね入居者が安心して終末期を迎えられるよう方針を立て関係者と共有して連携をとりホームで対応し得る最大の支援が行えるよう取組まれている。</p>	<p>ホームで対応しうる最良の看取り支援に向け、職員の力量アップに務め医師、職員、関係者と連携を図り、安心した最期を迎えられるような取り組みに期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを読んだり、定期的な研修・訓練を行い、急変時・事故発生時の対応ができる実践力をつけている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施。地域の方に協力参加頂くことにより、地域との協力体制の構築に努めている。</p>	<p>年2回の避難訓練が行われている。災害が発生したときに混乱が起きないようにマニュアルを作成すると共に、避難経路を作成しホーム内の分かりやすい壁面に掲示されていた。</p>	<p>入居者の高齢化に伴う身体機能の低下や重度化により、職員のみでの誘導には限界があると思われる。そのため災害に遭遇したときに近隣住民の協力が得られるよう更なる協力体制に期待する。</p>

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、プライバシーを損ねることのないよう、言葉の1つ1つを大事に対応している。	職員と入居者の会話の中で、入居者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けやさり気ないケアによりプライバシーを損ねない対応がされている。	入居者の尊厳とプライバシーの確保を徹底していくために、定期的に接遇研修を行うことが大切である。入居者の誇りやプライバシーの確保について、日常的な確認と改善に向けた事業所全体の取り組みに努められるよう期待する。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表したりできる環境作りに努め、自己決定への声かけ・促しなどの働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	流れを強要せず、一人ひとりのペースを大切に、その人の希望を来ながら、その人らしい1日を過ごせるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	人と接し、おしゃれの意欲をなくさないような環境作りと、その人らしい身だしなみやおしゃれへの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の好みや力を活かし、それぞれが役割を持って参加し、楽しみながら食事ができるよう配慮している。	入居者の嗜好等に配慮して献立を立て入居者一人ひとりの力を活かし調理、配善、片付け等一連の作業に役割を持って職員の支援を得て行われている。職員と一緒にテーブルを囲み会話を楽しみながら和やかな雰囲気の中で「この食事は美味しい」と笑顔が見られた。	職員はお弁当を持参して入居者と食事をされている。入居者が職員のお弁当を見て「私のおかず食べて」と配慮されている場面が見られた。職員も同じメニューを楽しく食べることで「食の満足」の大切さを認識して職員全員で検討されるよう期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりがそれぞれの身体状況や習慣に応じ、必要な栄養摂取や水分確保が行えるよう支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。口腔状態・身体状況などに合わせて口腔ケアをしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの自立にむけ、それぞれのパターンをに合わせたトイレへの誘導や声かけなどの支援を行っている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを介護記録に残し全職員で周知しており、さり気ないトイレ誘導により自立に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事、野菜や乳製品の摂取・水分摂取に努め、便秘にならないよう予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望に合わせて、入浴できるよう配慮し、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	週2～3回の入浴支援が行われている。入居者の希望や体調を配慮しながらスムーズで安全な入浴支援が行われている。なお入浴を拒否される方には時間をかけタイミングを見ながら安心と満足が得られる入浴支援に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じた休息ができ、安心して気持ちのよく眠れるよう、日中に適度な運動を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について全職員が理解し、体調や症状の変化の確認に努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った楽しみや生活歴や特技を活かした役割を見つけ、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族・地域に協力してもらいながら、本人が外に出たいときに出れる、希望に合わせた外出の機会を作れるように努めている。	ホームに閉じこもらない支援の大切さを職員は周知されており、日常的な散歩による外出支援に配慮されている。地域の民生委員や近隣の住民による散歩支援が行われており、商店街やエンパーク(図書館)への散歩を楽しまれていることを伺った	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所ではあるが、本人が使いたいときに使えるように配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの希望・意向を尊重し、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花や絵・作品などを飾って、不快や混乱をまねくような刺激がないように努めている。また、掃除もこまめに行っている。	共用空間は広く居間、食堂、台所が一体化しており、調理をしながら入居者との会話や状況把握が出来る事や調理の匂いが漂い家庭的な雰囲気や生活感が得られている。また季節の花(シクラメン等)が要所要所に飾られると共に、クリスマスの飾りつけにより季節感を採り入れ、空間づくりに工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の時間・共有での時間など、自分に合った空間で思い思いに過ごせるよう、居場所の工夫に努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ塩尻)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮			
55		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室は、自分の今まで住み慣れた生活に近い空間で、馴染みのある物がある、安心して心地よく過ごせる場所であるように工夫している。	入居者の希望により畳の部屋とフローリングの部屋が選択できる仕様になっている。居室には入居者の馴染みの品(テレビ、筆筒、衣装ケース、家族写真、ぬり絵作品等)が持ち込まれ、思い思いの形態に配置して居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることやわかることを活かし、それが安全に継続して行え、自立した生活が送れるように努めている。		